

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和3年12月10日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから、12月10日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿いまして説明をいたします。

まず、来週の委員会ですけれども、午後に臨時会議もあります。中国電力との意見交換会ということで、ウェブではなく対面で行います。

中国電力からは、清水CEOと北野CNOが参加されるという予定となっております。

次が、12月14日の（2）、第1019回審査会合ですけれども、こちらは特重なので非公開ということになります。

議題は2つありまして、1つが柏崎刈羽原の6・7号炉の許可ということで、前回10月28日のコメント回答などということです。

2つ目は、高浜1・2号炉の設工認ということで、これは警報なし津波に対応することが特重部分にもはねてきますので、その部分ということで今回が初会合ということになります。

裏に行きまして、12月14日の（4）、環境放射線モニタリング技術検討チーム会合です。

これは毎年大体2回、12月と3月に行っているものですが、自治体が行う環境放射線モニタリングの測定手法、これは全部で30種類ほどあるのですけれども、その改定とか新規の策定を、30種類あるのを年1種類ずつ計画的に見直しをしているというものでありまして、今年は議題にあります「大気中放射性物質測定法」の新規策定を行うということになります。今回、12月は原案を出して議論しまして、3月に決定されるという感じになります。

次が、12月16日の（6）、新規制要件に関する事業者意見の聴取に関する会合ということですが、この会議は、事業者規制について意見を聞きたい案件が出るたびに不定期に行っているという会合です。

今回の議題は、電磁両立性への対応についてということで、これは9月9日の技術情報検討会に報告をされまして、その件について今回事業所の意見を聞くということになります。事業者は原子力エネルギー協議会、ATENAに取組状況などを聞くということになります。

次が、12月17日の（7）、第1020回審査会合です。

これは地震・津波関係の会合で、議題は2つあります。

1つ目は、東海第二の標準応答スペクトル関係ということで、これは7月30日に次いで2回目の会議ということになります。

2つ目が、浜岡の津波評価ということになりまして、前回6月4日のコメントへの回答ということになりますけれども、先日幾つか報道があったようですけれども、津波の高さについて中部電力から新たな考え方が示されるように見込まれております。

説明は以上です。

#### <質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—